

# 心的状態の推測に対する理由づけの発達

子安増生・郷式 徹

## 1. 目的

第1回調査（心の理論の2課題）と第2回調査（表示規則の理解、道徳性の発達）の結果を受けて、第3回調査では同じ被験者集団を対象に、「文脈から他者の心的状態の推測に関して適切にその理由を説明できるかどうか」を調べるために、4コママンガを用いた「忙しいときに客」課題を実施した。また、PBI養育態度尺度およびテレビ・ビデオ・ゲームの各メディアとの接触量との関連性について分析した。

## 2. 方法

対象者：小学3年生132人、6年生121人であった。

課題：セールスマンが訪問した家庭で妻の泣き顔と夫の（虫を追い払う）叱声から夫婦げんかと勘違いしたその心的状態が分かるかどうかを調べるため、セールスマンが「きょうはだめみたいだから帰ろう」と思っている理由を考えて書かせる課題である。

## 3. 分析

- (1) 「忙しいときに客」課題の男女別・学年別の結果が図1に示される。男女とも、6年生の正答率が3年生よりも高かった（Fisherの直接法で男子 $p < .01$ 、女子 $p < .05$ ）。また、性差は両学年とも有意でなかった。
- (2) 表1に、各学年の第1回調査（心の理論課題）、第2回調査（表示規則の理解）、第2回調査（道徳性の発達）と第3回調査（忙しいときに客）との相関比が示される。
- (3) 「忙しいときに客」課題とPBIの各指標（温かい養育態度、過保護、母親の抑うつ）との相関比は、すべて有意でなかった。
- (4) 「忙しいときに客」課題と、テレビ・ビデオ・ゲームの各メディアとの接触量の有意な関連は3年生、6年生ともに見られなかった。

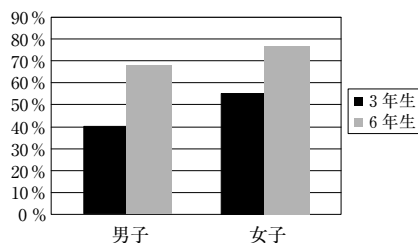


図1. 男女別・学年別の正答率 (%)

表1. 第3回調査(忙しいときに客)と第1回調査(心の理論)、第2回調査(表示規則の理解)、第2回調査(道徳性の発達)との相関比

	心の理論課題 (第1回調査)	表示規則の理解 (第2回調査)	道徳性の発達 (第2回調査)
3年生	0.05	0.21	0.08
6年生	0.28	0.15	0.22
両学年	0.21	0.23	0.16

ゴチックの数値は無相関の検定で5%水準で有意  
イタリックの数値は無相関の検定で10%水準で有意傾向

## 4. 結論

以上の結果は、他者の心的状態の推測能力が年齢とともに発達するものであり、メディア接触量だけから直接に影響を受けるような性質のものではないことを示している。